

平成 30 年 6 月 16 日

北関東フォーラム

於：シムックス

中斎塾 北関東フォーラム
平成 30 年度 第 6 回

福島幹事の素読は、大変良うございました。だいぶ読み込んでおられると感じました。自分の言葉になって来ましたから、あとは、それを日常生活に置き換えたり、論語の中から世の中の動きを見る判断基準をつかみ出して戴くとよろしいでしょう。

栗原副代表幹事の挨拶は、「知足」について触れていました。これから色々な問題がご自身にも起きて来ます。その時、「ほどほど」で判断をしていくと、スパッと割り切れると思います。余計な判断基準を沢山持たなくても、これ一つで十分いけると思っています。

話を聞いていて、「知足」についての解説もだんだん見直しをした方が良いかなと感じました。「ほどほど」というと、初めて聞く人は「そんなものか」と思ってしまいます。

「十牛図」第 6 騎牛帰家 — らしくあれ

明恵上人の説法の話があります。檀家の信者が明恵上人に、「毎度のお説教で、私の心の垢はすっかりとれたように思いますが、まだ安心立命の気持ちになれません。悟りが開けるような特別な説法をして下さい」とお願いをします。明恵上人は、「六根清浄してからお悟しいたそう」と約束し、檀家の信者は言われた通りに身を浄めて、勇んでお寺にやっ来て来ます。本堂で待っていると、明恵上人がきちんと僧服を身につけて出て来る。今まで沢山寄附をしたから、その見返りに特別な説法が聞けると期待して耳をそばだてていると、明恵上人が一言、「らしくなされ」と言われた。この話は中村天風先生の『十牛図』の解説で説明されています。

〇〇らしく・・・倫理法人会の会長さんなら会長らしく、木鶏クラブの会長さんなら会長らしく、そのポジションに従って、らしくしなさいということです。中斎塾フォーラムで学んだなら、学んだ者らしくしましょう。少なくとも姿勢がピンとなると良ろしいですね。どういうふうになれば学んだ者らしく見えるのか、それはご自分でお考え下さい。

では、それを考えるために恒例の質問を致します。

今年も半年経ちましたから、半年でお聞きしましょう。

○ 半年間、良い日が続いたと思う方

良い日が続いたなあと思うだけで良いのです。この日とこの日は良い事があった・・・などと具体的な事実を並べて、客観的に検証する必要はありません。天秤にかけて客観的に分析したら、せっかくの良い日が消えてしまいます。ですから主観で、良い日が続いたなあと思えばよいのです。

○ 半年間、ほとんど嘘をつかなかった方

トランプさん、習近平さん、安倍さん、この人達は嘘のつきっぱなしですから苦しいでしょうね。自分が苦しいと思うと、実に表情が悪くなります。嘘をつくと、心の中が汚れて顔色がどす黒くなりますから、皆さんも気をつけましょう。

とはいえ、嘘をつかないというのは結構難しいことです。リップサービスや無意識のうちにポロツとついた嘘は、罪悪感に悩まされずに、「それくらいはいいや」となっていることでしょう。

○ 半年間、有難うと言ひ、有難うと言われることが多かった方

これも客観的な答えを求めないで、主観でお考え下さい。

○ 半年間、健康法をよくやったと思う方

○ 昨晚寝る時、今日は良い日だったと思って寝られた方

結構、手が挙がりました。では、過去形では如何でしょうか？

○ 明日も良い日だったなと思って寝られた方？

理屈で考えれば、そんな馬鹿な！ となりますが、脳をそのように訓練していくのです。明日を過去形で考えられるように脳を訓練すると、自然と頭の中が変わって来ます。そう出来れば、とても幸せな人生が送れます。

○ 半年間、自分磨きをよくやっていると思う方

はて、私は何をしたかな？ と具体的なことを考えると、ためらいがあつて手が挙がらないのです。今日の質問は、客観的に考えないで主観的にものを見ましようとして申し上げています。

主観をずっと突き詰めていくと、客観になります。逆に、客観を突き詰めると主観に繋がります。なぞなぞのように思うでしょうが、そういうものかなと頭の片隅に置いておくくらいで結構です。

天下 道有れば・・・

では、論語の解説を致します。その中で時事評論を入れてお話致します。本日の論語は、季氏篇の2です。

【二】孔子曰く、天下 道有れば、則ち礼楽征伐、天子自り出ず。

孔子が言うには、天下に秩序があれば、政が正しく行なわれ、天子の意志で礼楽（文）・征伐（武）もきちんに行われる。

今の時代に合わせて考えましょう。「天下 道有れば」・・・今、世界の秩序はきちんとして、政がきちんとしているのでしょうか？

残念ながら、世界に道がないから、ばらばらの状態になっています。トランプさんが出て来ただけで、世界の秩序はばらばらになってしまいました。アメリカのトップが変わると、こんなに変わるのかと思います。会社でいえば、トランプオーナーは「お客に対して譲り過ぎた。我々の利益が少ないから、もっと利幅を多く取ろうと思う」と宣言をして、実行し出しています。オンリーワンの企業で、そこに頼むしかない仕事を抱えていれば利幅がどんどん上がっていくでしょうが、競争相手が沢山いたら、そうはいきません。トランプさんの場合は、自分の所がオンリーワンだと勝手に決めているわけです。

今朝の読売新聞一面に「**米、来月に対中制裁関税**」と、アメリカが来月から中国製品に対する制裁関税を25%に決めたと出ています。「知的財産権の侵害を理由に」とありますが、横車を押しているだけです。中国はそれに対して同じ規模の関税をかけるでしょうか、お互いに喧嘩を始めようとしているわけです。どちらが勝つかは体力勝負で、中国が負けるでしょう。武力でいけば、まだアメリカの方が強い。ただ、アメリカは張子の虎で、実際に実力行使はないでしょう。出来るだけ実力行使をしないようにして、口で何とか世の中を回していこうとトランプさんはやっているわけです。

日本に対してはどうかというと、昨日の読売新聞に「**米関税 本丸の車に**」とあります。「輸入車への関税が25%になったらお手上げだ」と自動車メーカーの首脳が言っている、という書き方をしています。

ここ数日、新聞はアメリカの関税一色になっています。その中で、北朝鮮について書かれた記事を見ると、どういうふう制裁を辞めようかという話がどんどん出て来ています。昨日の新聞には、「**北制裁緩和 中露動く**」とあります。中国とロシアが北朝鮮に対する制裁を緩めるべきだとあちらこちらでやり始めました。制裁に詳しい国連関係者の話として、「この例外措置を悪用され、制裁の抜け穴が増える懸念がある」とあります。もう、米朝会談の行方は山を越したという感じですね。

それに伴って日本の場合は、「**日朝会談調整 首相、対話路線へ転換**」（6/14 読売新

聞)とあります。「トランプ大統領が12日の米朝首脳会談で日本人拉致問題を提起するなど、対話を通じた問題解決への好機と判断したため」と、尤もらしく書かれていますが、こういう書き方をすると新聞は良くないと思います。日本国内で日本人が誰かを拉致したなら、当然処罰を受けますね。なぜ、北朝鮮にはお咎め無しなのでしょう。個人対個人の場合は、国家のルールに基づいて制裁が加えられます。国対国になった場合、同じことをやっても国家そのものは実質的に制裁を受けない。これはおかしい話です。国家と国家は一体どういう間柄なのでしょう。

新聞、メディアを見た時、我々はそういう疑問を持つことが必要です。中斎塾フォーラムでは、「おや？」と思う疑問符を持つことが大切だと常に申し上げます。

ということで、今日の論語は、今の政界情勢・国内情勢を見るのにとっても役に立つ文章ばかりです。

てんか みちな すなわ れいがくせいぼつ しょこうよ い しょこう い けだ じゅっせい
天下 道無ければ、則ち礼楽征伐、諸侯自り出ず、諸侯より出ずれば、蓋し十世に
うしな まれ たいふ よ い ごせい うしな まれ ばいしん
して失わざること希なり。大夫自り出ずれば、五世にして失わざること希なり。陪臣
こくめい と さんせい うしな まれ
国命を執れば、三世にして失わざること希なり。

天下に秩序がなければ、君の権力が衰え、礼楽も征伐も諸侯から出るようになる。諸侯が政の実権を握れば、十世に亘ってこれを保つことは稀である。諸侯の家臣（大夫）が権力を握れば、五世これを保つことはないだろう。更にその家臣（陪臣）が権力を握れば、三世でこれを失う事になるだろう。

日本の場合、戦争に至った歴史をみれば、軍人が実権を握ったがために誰も大本営発表に逆らえなくなりました。そしていったんは破滅の道へ進んでしまいました。

更に歴史を遡ってみれば、源頼朝は三代で滅び、家臣の北條義時が実権を握りますが、北條氏も七代で滅んでいきます。その後、足利尊氏が室町幕府を開き、十五代237年続きましたが、戦乱ばかりで管領の力が強くなり、家臣の細川晴元が権力を握り、そして家臣の三好長慶へ移り、そのまた家臣の松永久秀へと移って、松永久秀は織田信長に殺されて室町幕府が終わります。

てんか みちあ すなわ まつりごと たいふ あ てんか みちあ すなわ しょじんぎ
天下 道有れば、則ち政 大夫に在らず。天下 道有れば、則ち庶人議せず。

天下に秩序があれば、政権が大夫に移ることはない。天下に秩序があれば、庶民が政を

批判することはない。

三越事件はご記憶の方もおられると思います。三越の岡田社長は独裁体制で会社を私物化し、愛人に人事の口出しまで許容していました。ちなみにヤマト運輸はその頃、三越の専属配送業者でしたが、岡田社長による協賛金の要求や不当な要請から、三越と絶縁して宅配事業を始めたという経緯があります。

そういう状況の中で、三越内部から社長の追い落としを図る勢力が出て、役員会で突然の解任劇に到るわけです。勿論、岡田社長は事前に手を打っていたのですが、結局、自分がクビにされ、驚いた岡田社長が「なぜだ！」と言ったことが新聞の見出しになりました。

会社のトップが秩序正しくきちんと経営をしていれば、こんな事件は起きないし、一般の社員が「役員連中は困ったものだ！」などと文句を言わずに働いてくれる・・・と、この論語を読めばよいでしょう。

日本の国の場合も同じです。正しい秩序がきちんと機能してれば、「もりかけ問題」などさっさと解決しているはずです。終わっていないということは、皆それぞれ心の中にやましい部分があるからズバツと出来ないのです。

何度も申し上げますが、論語を読んだら、それを現実の世界に当てはめて考える癖をつけて下さい。そして、新聞・メディアを見たら、自分の心の中に「なぜ？」という疑問が常に浮かんで来るよう自分を鍛えて戴きたい。もしも浮かんで来なければ、自分はまだまだだと思って下さい。

十牛図

本日のテーマは「十牛図」です。「十牛図」については何冊か本を紹介していますが、今日は山田無文老師の書かれた『十牛図』（禅文化研究所）を持って来ました。お坊さんが説明したものはなかなか分かりにくいのですが、その中では分かりやすい本です。

「十牛図」は禅で修行の段階を、牧童が牛を飼い馴らすのになぞらえて十枚の絵と詩で説いています。ですから、自分が今、人間としてどこら辺のレベルにいるか、学びのレベルはどのあたりか、考えてみて下さい。

①尋牛・・・牛を尋ねて行く

牛は悟りです。「尋牛」は、悟りたいと強く思った時。学びで言えば、学びたいと強烈に思ったなら「尋牛」です。こういう事をやりたい、こういう事を成し遂げたいと、何か志を立てた時です。

②見跡・・・牛の足跡を見つける

自分が手に入れたいと思うことに関して、手がかりを得た時です。学びのレベルで言えば、良い話を聞いたり、良い本を見つけた時が「見跡」です。

③見牛・・・牛の姿を見つける

悟りを見る。素晴らしい人格を持った人、悟った人に出会い、落雷に打たれたようにハッとします。お手本を見つけ、そしてその人に追いつきたいと思う時が「見牛」です。

④得牛・・・牛を捕まえる

悟ったと思った段階です。会社を大きくしたいと思って必死に頑張っ、<どうだ俺はここまでやったぞ！>と思ったら「得牛」です。

ところが、ここまで来たと思っても栄誉は長く続きません。手に入れたと思っても、ポロポロとこぼれているということを理解しておかねばなりません。悟っても、悟り続けることは出来ないと考えておく必要があります。

⑤牧牛・・・牛を手馴らす

牛に乗って、牛を自由自在に手馴らしている。自分が悟ったものをベースにして、常に自分の思う通りに考え、動くことが出来る段階です。

⑥騎牛帰家・・・牛に乗って家に帰る

先ほどお話した「らしくあれ」です。学んだら、学んだ者らしくしなさいということですから。らしく、らしくと心掛けていると、そのうち本物になります。西郷隆盛は目から鼻に抜けるような人間で、角がある人物でした。それが、幾度か生死の境をくぐり抜け、学んで学んで、学んだらしく生きていったので、世に伝わる西郷隆盛らしくなったのです。自分で、「らしくあれ」と思って生きることが出来る段階が「騎牛帰家」です。

⑦忘牛存人・・・牛を忘れる

自分が悟ったことも忘れてしまう段階です。絵では、牛が消え人だけが残っています。天風先生は、「晴れてよし曇りてもよし富士の山 もとの姿は変わらざりけり」と解説されています。曇っている日は富士山が見えません。それは人間の眼からは見えないだけであって、富士山そのものは変わらない。言い方を変えれば、人から「あの人は素晴らしい」と言われてそっくり返ることもないし、「あいつはダメだ」と言われて萎むこともない。自分は自分、他人の評価は気にしない。人の言葉にいちいち心動かない。それは自分の絶対を確立するからで、生死を超越する感覚という説明をされています。

学びでも、「忘れじと覚えしうちは忘れけり 忘れて後が忘れざりけり」で、一所懸命覚えよう覚えようと思っているうちはだめで、気にしないで、ごく当たり前に身に付いてしまえば、忘れることはありません。

⑧人牛俱忘・・・人も牛も忘れる

自分が覚えていることも忘れてしまう。掛け軸などで、ただ〇（円）が書かれているのを見たことがあるかと思います。これは「人牛俱忘」の境地を表しています。心の中に何のわだかまりもない、生死も氣にならない世界です。自分で自分を鑑みる最高の境地で、「円相」といいます。

我々が学んでいる論語は、「円珠経」とも言います。論語を学ぶことによって、禅で言う「人牛俱忘」の世界と相通じると覚えて戴きたいと思います。自分自身が向上していくのはここまでで、人間として到達できる最後の段階です。

⑨返本還源・・・すべて本の通りになる

天風先生は「染めいだし人はなけれど春来れば、柳は緑、花は紅」と説明されています。人間が何も手を加えなくても、春になれば柳は芽吹いて、花はきれいな花を咲かせる。人間も同じで、方向を間違えずに一所懸命自分を磨いていけば、柳は緑、花は紅の世界に入れます。

⑩人麴垂手・・・町に出て人々を救う

布袋様を浮かべるとよろしいでしょう。雰囲気としては、殺伐とした居酒屋に布袋様のような風体の老人がぶらっと入って来て、お酒を一杯飲んで店から出て行く。そうすると店にいた無頼漢やならず者たちが、何とはなしに感化されて、真っ当な人間になる。そういう力を身に付けた段階が「人麴垂手」です。

①～⑧までは自分自身が修行してレベルアップする段階です。⑨⑩は、自分が何かしようと思わなくても相手が感化されてくる。人様に対して良い影響を与える段階になります。これはもう最高境地ということですから、私には分かりません。

本日のテーマ「十牛図」を説明致しました。学びを悟りと捉えて、自分は今どのへんか考えて下さい。良い本を見つけた段階であれば、それを読みこなしていくと、どこかでカチッと心の中の扉が開きます。そうなれば、そこからまた色々な知恵が溢れて来ます。

肚を鍛えられない国家は滅びる

先ほど新聞の見方について申しましたが、別の視点、「十牛図」のものの考え方でお話致します。

・骨太方針など閣議決定 政府4計画 人で不足に対応 (6/16 読売新聞)

「政府は経済財政運営と改革の基本方針（骨太の方針）など、「政府4計画」を閣議で決定した」とあります。中身を読むと、政府はこう決めた、こうした・・・と、とても良い事を政府が決めたというふうに書いてあります。しかし、こんなに断定してよいの

でしょうか？

4 計画の中味を見ると、「**骨太の方針**」として、「人手不足解消に向け、新たな在留資格を創設。基礎的財政収支を 2025 年度に黒字化」とあります。これだけ読むと政府は良い事をしているように錯覚しますね。基礎的財政収支（プライマリーバランス）とは、分かりやすく言えば「入るを量りて出ざるを制す」で、入って来た収入で出て行くものを賄えばよい、そしてちょっぴり残せばよいのです。ところが政府は年がら年中、先延ばしを繰り返しています。反省が何もないのですから、ふざけるなと思いました。

「**未来投資戦略**」として、「自動運転や人工知能の開発に注力」。「**まち・ひと・しごと創成基本方針**」として「地方に移住して起業する人へ資金援助などで地方の就業者を増やす」。「**規制改革実施計画**」として、「医療、保育、雇用、農業などの分野で規制見直し、成長産業に」。

4 つの基本方針が書いてありますが、何のことはない、根っこは日本人が減ってきたからです。少子高齢化で働く人がいなくなったからです。そこで、女性に働いて貰いましょう、年寄りにはほどほどに働いて貰いましょうということです。ただし、高齢者にどんどん働いてもらおうと言いながら、一定額以上の収入を得ると年金がカットされるのですから、アクセルをふかしながらブレーキも踏んでいます。

更に、人工知能、ロボット、自動運転・・・という言葉が並びますが、要するにロボットで人出不足を補いましょうということです。

ということで、ここから透けて見えるのは、<働け！ 働け！ 働け！ けれども収入は増やさない>。なぜこんなふうになっているかという、日本の国の政治家は、「十牛図」で見ると①～②の間を行ったり来たりのレベルだからです。そこから先に進んでいないからです。

・民泊 53 自治体で追加規制 (6/15 読売新聞) / 民泊 想定外の低調 (6/16 読売新聞)

民泊に関して、どんどん規制を厳しくするので民泊オーナーがどんどん撤退をしているという記事です。これまた、アクセルをふかしつつブレーキを踏んでいます。

なぜ、そんなばかな真似をするのでしょうか。それは悟っていないからです。肚が据わっていないからです。こういう状況で戦争になれば、日本は直ぐに負けますね。

終戦直後、吉田茂首相はマッカーサーに「日露戦争の頃に出会った将軍はみな風格があって立派だった。今の将軍たちは同じ民族とは思えないくらい違っている。どうしてこのようなことになったのか」と聞かれ、答えられなかった。そして、肚を練らない将軍ばかりだから、ここぞという時にたじろいでしまった。それが日本の敗因であるという結論に

至ったということです。

肚を鍛えられない政治家、官僚、国家、国民は滅びる。そういう時代が、もう目の前にはっきり出て来たのだと思っています。

お時間になりました。本日の講話を終了致します。